

全日中事務局だより

▲第一回理事会で情報交換が行われました。「県と政令指定都市との関わり」の在り方」についての概要後半部です。

▲D県理事です。

私は市の校長会に入ってはおりませんが、都市部の市の校長会という方が中心になって運営を進めてきており、組織自体が市の中心になりがちだった部分がありました。三年ほど前から、税源移譲になる部分を含めて、市の校長会と県の校長会でいろいろ検討していく中で、当初は市の中でも、行政的な部分もあり、独立する方向でお話もありました。

ただ、副会長からお話があったとおり、最終的に、子供たちを育てていく上では、オール県というスタンス、市であっても県であっても一緒に研修をということでお互いに考えていた部分

がありましたので、何とかその方向で進めたいということで組織的検討を進めてきました。もともと県は広域で、五つのブロックだったんですが、市を一つ独立するブロック、第六ブロックとし、全県二〇地区、市も一つの地区ですので、二〇地区の連合体として、全日中の規約と同じような形で規約を変えまして、連合体として県校長会としてやっていくという形で、おとしから組織検討を進めて、去年の春の総会で規約の改正も含めて全部承認していただきました。

金銭的な部分につきましては、県の校長会としては、各地区の研究に対して、それぞれ足りない部分であり、それから、広い地域なので、会場がどうしてもとれないときには補助をしていくというスタンスがありました。その中で、市については大都市研究大会というのがありますので、その部分についてのいろいろな補助という形で、会

費は納めていただく中で、大都市研究大会に向けての準備もできるように、それから、市は一〇〇校近くの校長がおりますので、県内の各地区の研究大会、それから全国の研究大会にもある程度人数を派遣できるような形での負担をしていくということで、研修費を少し多く出すという形で、総会も含めて承認していただいている経緯がございます。その上で、市と全県の各地区の皆さんと、双方で理事も選出する中でバランスをとりながらやっていくという形で、合意に至っております。

ただ、実際活動の中では、県教育委員会・県、それから市教育委員会・市に対してのいろいろな要請活動というのは異なる部分がやはり出てきます。その部分については、私自身は市ではありますけれども、県の理事あるいは県の役員として、県・県教委に対して代表して要請活動を行ってはいまいます。政令指定都市については、要請活動の

際にはそこは外してというか抜いて、市は市のほうに要請ができるようなスタンバイをしていただくという形で分けてはおります。

研修にかかわっては、オール県でやっていきましょうということで、この部分については完全に一致していますので、県の校長会の役員体制についても、研修部には市校長先生方も入っていただいて、中心になって全県の皆さんと一緒に取り組んでいるというような現状です。

やはり二年ぐらいはかかってきているのですけれども、その中で規約も含めて確定できましたので、県についてはこの形で市と共に進んでいけるかなと思っておりますし、市の校長会ともそういう形の中で県では取り組んできている現状です。

▲E県理事です。

昨年、この総会の折にも直田会長から、現場の声をぜひということ代議

員から発言があったと思いますが、昨年度一年間いろいろな協議をしてきて、ことし新たな課題が出てきておりますことをこの場で御報告させていただきます。

まず、先ほど出ました小学校との兼ね合いですが、本県は小学校長会と中学校長会は別組織で、各地区から県へという段階的な集合体です。本年度は、小学校のほうははっきりと政令市——本県は二市が分かれまして、三連合体での組織づくりをしておるようでございます。そういう変化がある背景の一つに、今中学校の校長会で悩んでおりますのが、それぞれ政令市の行政の捉え方に非常に温度差があつて厳しいものがある。今のところ中学校は、私は市から出ておりますが、各県と同様に、県は一つの組織として頑張ろうということで運営をしておるわけですが、両市の行政のほうから、我々が県外に、例えばこのような大会に参加す

るときの扱いについて、これまでは職免等が認められておったのですが、一堂に会して大人数の現場の校長が出るのは認められないというような縛りがかかってまいります。先日の県の常任委員会の折にもその声はお届けしながら、ブロック大会での参加人数の見直し等の御意見を言わせていただいたのですが、同じように全国に向けても具体的厳しい試案が出ております。

今後、行政と煮詰めながら、それぞれ開催地区の運営にかかわる参加人数でありますので、その辺、何とか募集がある人数については一〇〇％参加できるような体制づくりをしていきたいのですが、政令市の厳しい行政の姿勢から、ちよつと今苦慮しておるというのが課題であります。

▲司会者 それぞれいただいた情報提供については、理事の先生方、参考にしていただきたいと思います。

(事務局長 松澤 宏尚)